

氏名(本籍)	姚新華 (中国)
学位の種類	博士(社会科学)
学位記番号	博課第344号
学位授与年月日	平成19年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 人間文化研究科
論文題目	中国における農村養老保険制度の加入規定要因の研究 ー内陸少数民族農村と沿海漢民族農村の比較を通してー
論文審査委員	(委員長) 教授 八木秀夫 教授 栗岡幹英 教授 中島道男 助教授 水垣源太郎 教授 出田和久

論文内容の要旨

本論文における著者の研究目的は次の三点にある。

第一、中国の農村養老の実態、ならびに試行後20年経過した農村養老保険制度の現状を明らかにすること、

第二、中国農村養老保険制度への「加入志向」(加入希望と保険水準選択)の規定要因を総合的に分析し、個人の文化価値観(老親扶養の伝統的な観念、あるいは自己負担的な養老理想)、民族の価値観(少数民族と漢民族別)、経済的な要因(個人レベルから国家レベルまで)、住民間の互助風習の有無、地域のネットワークの整備(内陸と沿海の比較)など、農村養老保険制度への加入に影響する諸要因のメカニズムを考察すること、

第三、以上の研究結果をもとに、中国における農村養老保険制度の適切なあり方を検討すること、である。

以上の点を明らかにするために、著者は、日本及び中国で出版された文献・資料を蒐集しその内容を検討するとともに、著者自ら中国においてインタビュー調査とアンケート調査を数回にわたって実施し、その結果を分析するという研究方法を用いている。

第Ⅰ部「理論編」は文献・資料による研究部分であり、第Ⅱ部「実証編」は著者自らのアンケート調査およびインタビュー調査による部分である。第Ⅲ部「考察編」はそれらをもとに中国における農村養老保険制度の将来の展望を試みたものである。

各章の内容は以下の通りである。

第Ⅰ部、第1章「中国の高齢化と農村社会の変容」は養老健康保険に関連する中国全体の人口構造の変化、農村の土地制度改革に伴う農村の政治的、経済的、文化的变化について文献・統計資料をもとにして論じたものである。

第2章「中国都市・農村の養老保険制度の歴史と課題」では、農村と都市の経済的二重構造の存在という前提条件のもとで、将来の農村保険のモデルともいべき都市養老保険制度の内容と改革を検討している。つぎに、養老保険制度が未整備な段階における農村の社会保障の仕組みを歴史的視点から考察するとともに、農村養老保険制度の成立過程と停滞の現状、その制度的問題点を検討している。

第3章「福祉国家比較論と中国の社会保険制度」では、世界史的観点から将来の中国の福祉制度のありかたや、とりわけ農村養老保険制度の構築という観点から、福祉国家論の検討を行っている。

第Ⅱ部実証編は、著者自身が実施したアンケート調査とインタビュー調査の内容説明と結果分析から成り立っている。

第4章「その1 聞き取り調査による内陸少数民族（新晃侗族自治县）における農村養老保険制度の実施実態とその農民家族扶養の限界」では湖南省新晃侗族自治县における聞き取り調査や収集した資料の検討から、内陸少数民族農村地域における農民の生活実態、農村養老保険制度の実施の現状、農村高齢者の扶養状況等を明らかにしている。

「その2 内陸少数民族農村地域における養老保険制度の「保険加入」の規定要因の考察——侗族自治县での質問紙調査結果をもとに——」では二つの侗族自治县での質問紙調査データに基づいて、農村養老保険制度の保険加入志向をロジスティック回帰分析で、保険額水準選択を重回帰分析で分析している。

農民保険加入志向に影響を及ぼす変数として、性別、年齢、学歴、家族人数、近隣扶助関係、親と同居、理想養老家庭責任、理想養老社会責任、国養老解決期待、老後心配程度、制度認知度、制度加入有無の12の変数が析出された。

保険額水準選択を規定する要因として学歴、家庭平均水田、居住地経済条件、老親扶養意識、親施設利用考え方、生活満足度の6つの変数が析出された。

第5章「沿海漢民族農村地域における農村養老保険制度の「保険加入」の規定要因の考察——漢民族二県での質問紙調査結果をもとに——」では、沿海部二つの漢民族県で行った質問紙調査データから、農村養老保険制度の保険加入志向をロジスティック回帰分析で、保険額水準選択を重回帰分析の方法で分析を行っている。

保険加入志向を規定する要因として、家庭年収、理想養老社会責任、国養老解決期待、老後心配程度、生活満足度の5つの変数が検出された。

また保険額水準選択を規定する要因として「健康状態」「家庭年収」「老親扶養意識」「高齢期貯金」

「農保制度認知度」の5つの変数が検出された。

第6章「農村地域における農村養老保険制度の「保険加入」の規定要因——内陸少数民族農村と沿海漢民族農村の比較——」では、内陸農村と沿海農村と少数民族と漢民族の「保険加入志向」と「保険額水準選択」の比較を行っている。

第Ⅲ部 考察編

第7章「農村養老保険の実施に対する農民の『保険加入』意識の作用メカニズム」では調査結果から、「保険加入」意識の規定するものとして、1、文化価値的要因、2、個人的要因、3、家庭環境的要因、4、地域環境的要因、5、制度的要因の関係を分析した。そこから、個人的な要因の中で性別、年齢といった生得的条件によって、教育を受けられる機会は規定される。さらに学歴は従事する仕事を媒介して家庭年収に影響を及ぼす一方で、個人文化価値観も個人の労働経験によって形成され、老後保障資源を選択する際、家庭扶養を、あるいは、個人責任を選択する、といったメカニズムを見出している。

終章「本研究のまとめと今後の課題」では「保険加入」志向を高めるための可能な提言、中国の農村養老保険制度の未来像、および研究の今後の課題について述べている。

論文審査の結果の要旨

本論文における著者の研究目的は以下の3点にある。

- 第一、中国の農村養老の実態と農村養老保険制度を試行20年以來の現状を明らかにすること、
 - 第二、中国農村養老保険制度への「加入志向」(加入希望と保険水準選択)の規定要因を明らかにすること、
 - 第三、今後の中国における適切な農村養老保険制度あり方を検討すること、である。
- 論文の特徴をそれらの目的にそってまとめるならば以下ようになる。

第一の論文目的に関しては

1、今日および将来の中国農村養老保険制度にとって中国社会の政治・経済・社会の歴史と現状が、基本であることとの認識のもとで、その問題点を、1、中国における工業部門と農業部門、都市と農村等における格差問題、2、近い将来中国社会にとって大きな問題となる高齢化問題について、内外の文献および統計資料をもとに分析し、そのことによって本論文の社会的背景と意義を明確にしている点である。

2、これまで農村社会の養老問題を支えてきた、農村における経済的・社会的な諸制度が崩壊しつつあること、さらには、個々の家族で養老問題に対応することの困難性を文献資料だけでなく、インタビュー調査等を使って明らかにしている点である。それによって農村における養老保険制度の充実の必要性は急務なものであるという著者の主張が高い説得性をもつものになっている。

3、そのように従来の諸制度が崩壊する中でもっとも期待されるべき農村養老保険制度の実態、それが機能しない原因について、文献資料や統計資料だけでなくインタビューを中心とする著者自らの調査で明確にした点である。その際に、比較の対象として都市養老保険制度の詳細について検討したことも高く評価できる。

4、中国の制度を日本やイギリスの制度と比較するという世界的制度比較の観点を取り入れている点にある。それによって中国の制度の問題点はより明確なものになった。そこから、都市と農村で格差のある年金制度の改革の必要性、「農民には土地が生活のすべて」とする旧来からの意識を変革するための教育の必要性、養老保険に対する集団的補助の保証の重要性、農民の信頼を得るための制度の恣意的変更の禁止等、著者独自の見解が導き出されている。

第二の論文目的、中国農村養老保険制度への「加入志向」(加入希望と保険水準選択)の規定要因を明らかにするという点に関しては

- 1、内陸少数民族ではある湖南省新晃侗族自治县で行った2回におよぶ聞き取り調査(2002年12月

～2003年3月、2004年8月）、同県と通道県の二つの地区で行ったアンケート調査（2005年8月～9月）、さらには沿海漢民族農村地域である広東省博羅県と東莞市で行った調査（2005年8月～9月）はいずれも方法、内容ともに優れたものである。アンケート調査だけでなく聞き取り調査を行うことによって農村養老保険の問題性の実態がより明確なものになっている。また、調査地の政治的・経済的・社会的・文化的な歴史と現状に関する著者の調査研究はアンケート調査の結果分析に大きく寄与している。

2、農村養老保険制度に関する先行研究に関する配慮が十分され、それらの研究者との比較の観点から研究がすすめられている。

3、調査の分析枠組は理論的に優れたものの一つといえるであろう。二つの考察項目 1、「農民の農村養老保険への加入志向」 2、「農民の農村養老保険額水準の選択」、5つの要因群 A個人の属性、B家庭環境、C地域環境、D1個人文化観（老親扶養意識）、D2個人価値観（自身扶養意識）、Eその他の変数と各要因群に含まれる説明変数を設定し、先行研究のデータ分析の結果を考慮して慎重に仮説を構成し、かつ調査を実施している。

また、仮説との異同の検討も慎重に行われている。

著者は、内陸少数民族の調査では、楽章（2002）の全国調査のデータの分析「女性は男性より保険加入志向が高い」とは異なった結果や、「老後心配程度」が保険加入志向を高めるなどいくつかの興味深い結果を発見し、それらの結果に対して著者独自の解釈を加えている。

4、保険加入志向のメカニズムを明確にしたことにある。加入志向には、文化価値的な要因、家庭環境的要因、地域環境的な要因が作用しているが、その中でも、個人の文化価値的な要因は重要なものであるが、それは、養老のための他の資源としての「養児防老」、「自己頼り」といったものに影響を与えていること、また、地域経済条件、近隣扶助、さらには学歴や性別、年齢といった個人的要因とともに個人の文化価値的な要因にも影響を与えていることなどが明らかにされた。

5、先行研究では農民が保険に加入しない理由を、制度的な問題としてマクロなレベルで捕らえてきたが、著者は、それを農民の意識の側面から明らかにしている。保険未加入の理由の一つは農民に経済的余裕がないことであり、内陸部では、生活保障のためには土地を持っていることこそが重要であるといった土地保障の考え方が重要な要因になっている。さらに重要な要因として、社会的養老意識の欠如などの個人の文化的要因が重要な役割を果たしていることを確認している。それらは著者がインタビュー調査から得られた結果とも合致し、著者の農村養老保険の今後のあり方に関する提言と深く結びつくものとなっている。

第三の研究目的、今後の中国における適切な農村養老保険制度あり方を検討すること、に関しては著者は、アンケート調査の結果、保険不加入の原因の一つが水田面積や家族年収などの経済的要因に基づくものであるという結果を得て、かつインタビュー調査からも経済的余裕の欠如が保険不加入の

要因であることを理解し、極度な貧困状態にある西部農村地域などにおける農村養老保険の普及の困難性、さらには現在の段階で中国全体に同一制度を普及させることの困難性を確認する。そこで、中国を経済発達程度に応じて、西部、中部、東部の3地区に区分し、極度な貧困状態にある西部地区の農民には基本的生活を保障する社会救済を中心にした制度を、工業が発達した東部地区には都市と農村を一体化した制度を、中間地域である中部地区には都市養老保険制度と農村養老保険制度の両者を並列させる制度など、それぞれに異なった制度を用い、将来的に都市養老保険と農村養老保険を一体化した統一養老保険制度を中国全土に実現することを提言している。また、保険未加入の原因は子どもに頼るとか自己を頼りにするなどといった個人的な文化的要因が作用していること、またそれには教育程度が関連していることの発見から農村における教育水準の上昇のための政策の重要性を主張し、また、教育程度の上昇は経済的上昇の要因にもなることを指摘している。

以上のように著者は単に文献や公的な統計資料のみならず、インタビュー調査やアンケート調査によって中国社会全体の政治的・経済的・社会的制度のあり方、とりわけ都市と農村の格差について明らかにするとともに、文化的要因も含めて内陸部農村の保険加入の実態を明らかにしてきた。本著者による提言は他者は他者を納得させるに十分な説得力を持つものである。

以上の諸点から、本審査委員会は、本論文が奈良女子大学博士（社会科学）の学位を授与されるに十分な内容を備えているものと判断する。